



2018 Value of IT Certification

- IT 認定資格試験に関する調査 -

最新の調査結果から、認定資格試験がおよぼす世界中何千もの IT プロフェッショナルの生活とキャリアへの影響について探りましょう。

はじめに	3
概要	4
調査結果：	
認定資格を取得する理由	5-6
認定資格取得によるメリット	7-8
認定資格とトレーニング	9-10
認定資格の専門分野	11
認定資格試験の購買行動	12
トレーニング方法と学習教材	13-14
さらなる認定資格取得の意欲	15
結論	16
付録：	
回答者の属性	17
居住国/地域	18
業種	19
所属企業 / 団体の規模	20
Pearson VUE について	21

2015 年より実施している年次調査の最新の調査では、認定資格取得者の観点から、業界で認められた認定資格を取得するメリットを特定し、認定資格取得に向けたさまざまな道筋を概説します。2018 年度認定資格試験に関する調査 (VoC) の結果を探り、現在の認定資格試験動向の理解にお役立てください。

調査対象

この調査は、2017 年第 4 四半期から 2018 年第 3 四半期までの期間に、ピアソンVUE® 公認テストセンター (PVTC) で認定資格試験を受験した受験者が対象です。認定団体 (Cisco、Microsoft など) が、その受験者の調査へ同意した場合にのみ、調査協力依頼へのアンケート eメールを送付しました。全体で、32 の認定資格団体が調査に同意し、ヨーロッパを除くの 138 カ国から 10,000 以上の回答がありました。

調査は、アンケートメールを対象者に送付し、オンラインで実施されました。先着 100 名の回答者に 10 米ドル相当の Amazon ギフトカードの謝礼を用意し、世界の 3 地域別に調査への協力を依頼しました。調査は 2018 年 11 月～ 12 月の間に 4 週間連続して実施されました。

調査は、2017 年第 4 四半期から 2018 年第 3 四半期までに認定資格を取得した受験者を対象としました。

10,000+

138 カ国からの回答者

32

参加試験プログラム：

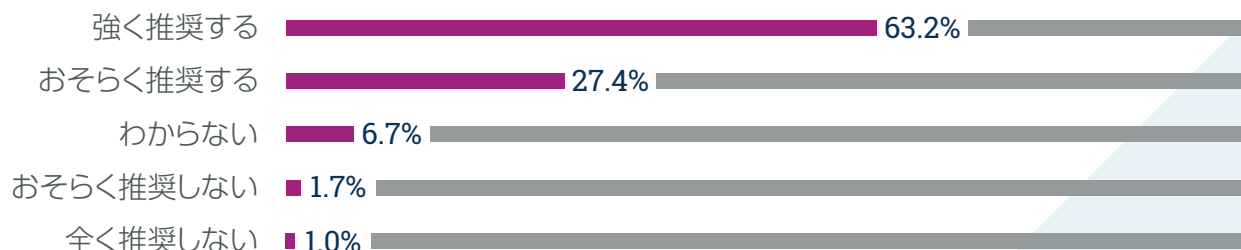
Arcitura Education	HPE
BCS	IBM
Check Point	(ISC) ²
Cisco Systems	kintone
Citrix Systems	Linux Professional Institute
CIW	Microsoft
CompTIA	NetApp
Dell EMC	Oracle
EC-Council	Palo Alto Networks
Ericsson	PCI Security Standards Council
ESRI	Pegasystems
ETEC	Qlik
F5	Software Certifications (QAI)
Facebook	Symantec
GIAC	Unity
Hitachi	VMware



調査結果：認定資格を取得する理由

IT 関連分野でのキャリアやキャリアアップを考えている友人・同僚に認定資格取得を推奨しますか？

回答者数 = 10,190

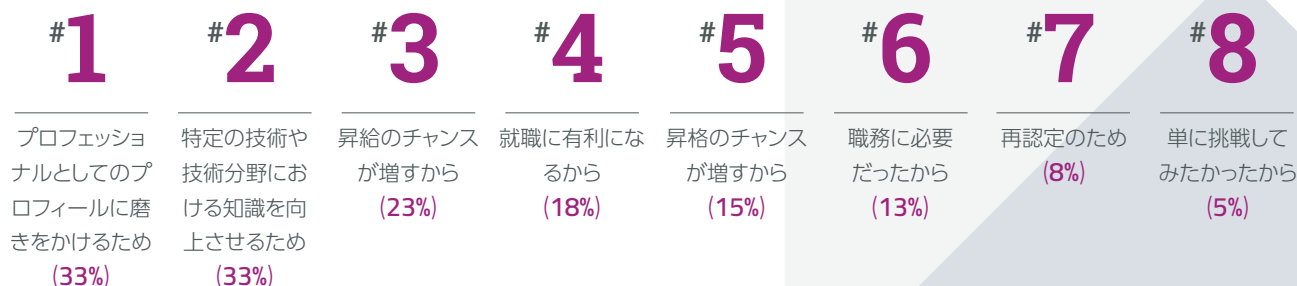


90% が認定資格試験の取得を推奨

認定資格取得の原動力は何でしたか？



認定資格を取得する個人的な理由は？



74% の回答者が認定資格取得によって個人的な目的を「達成した」または「ほぼ達成した」と答えました。

なぜ認定資格取得を目指したのか？

75% 近くの回答者は自分の意思で積極的に認定資格取得を目指した（内的要因）と回答し、残りの回答者は登録した教育機関のプログラムまたは登録したコースの間接的な結果である（外的要因）と回答しました。

内的要因のうち 33% は前述のプロフェッショナルとしてのプロフィールや地位の向上を挙げ、33% は技術的知識を向上させるためと回答。認定資格を取得した理由を挙げた回答者の 74% が、認定取得により目的を「達成した」または「ほぼ達成した」と回答しています。

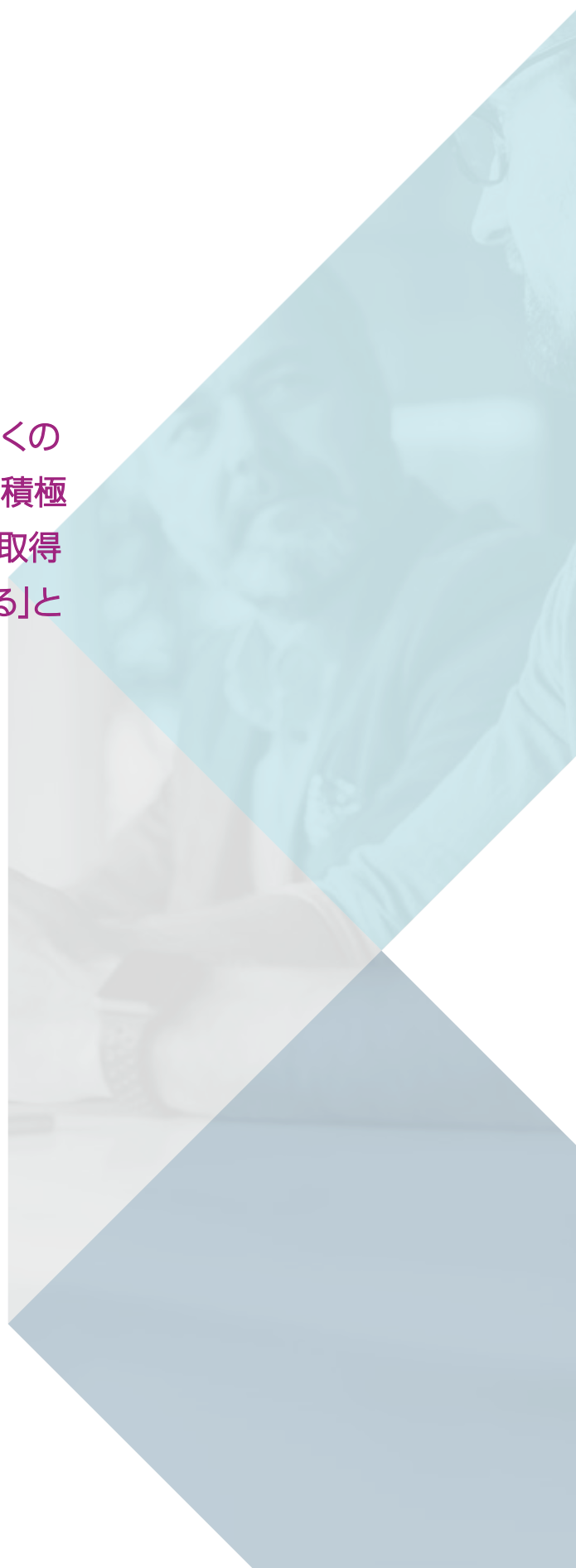
どのようなメリットがあったか？

回答者は、認定資格取得により以下の 3 つタイプのメリットを実感したと回答。多くの回答者が後者の 2 つのタイプのメリットをより多く実感したと回答しています。

- 客観的メリット（測定可能な数値的価値）
- 個人的メリット（個人的な価値）
- 実務におけるメリット

大多数の回答者は、より専門的な信頼を得ることや知識をより長く維持できるなど、認定資格を取得する過程で得られる無数のメリットが、トレーニングを受けるだけの場合に得られるメリットの数を上回ると述べています。

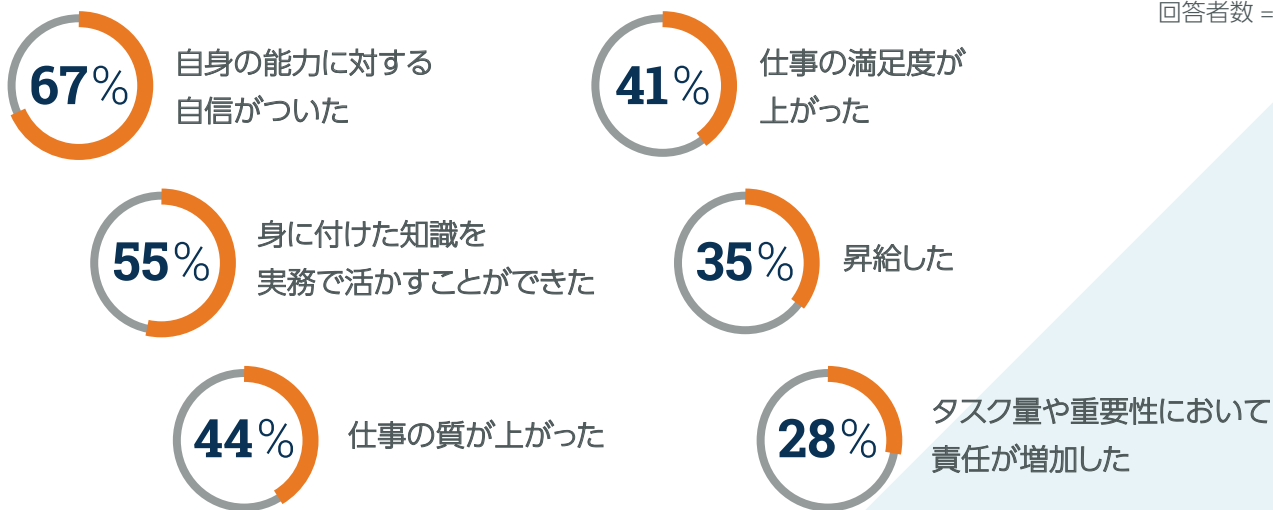
**“4 分の 3 近くの
回答者は「自ら積極的に認定資格取得
を目指している」と
回答”**



7 調査結果：認定資格取得によるメリット

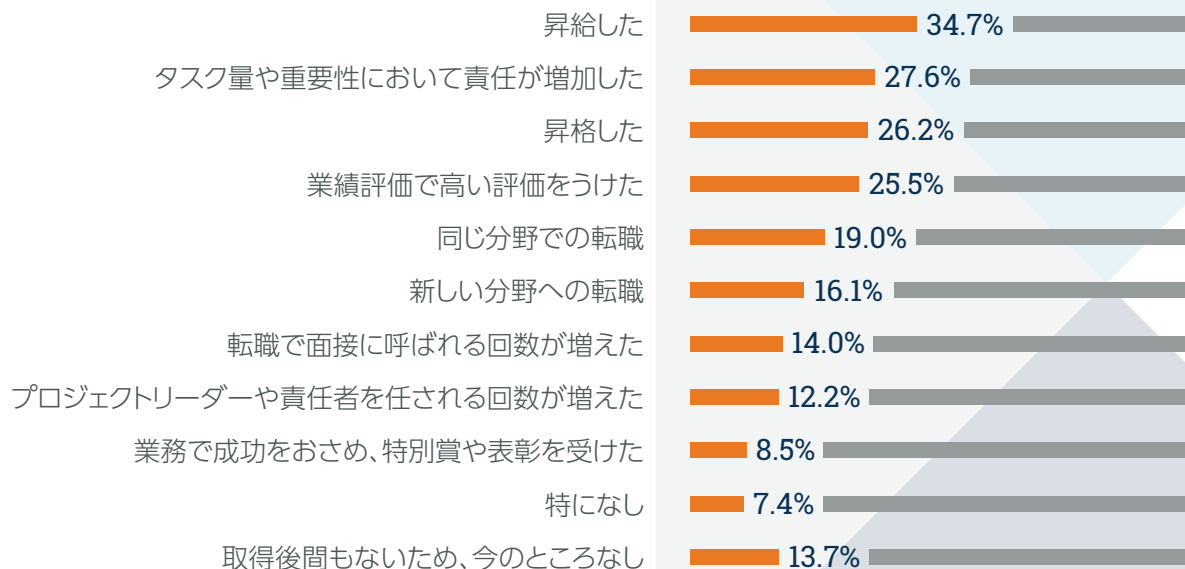
認定資格取得により以下のメリットを享受したと回答：

回答者数 = 9,951



客観的メリット（測定可能な数値的価値）

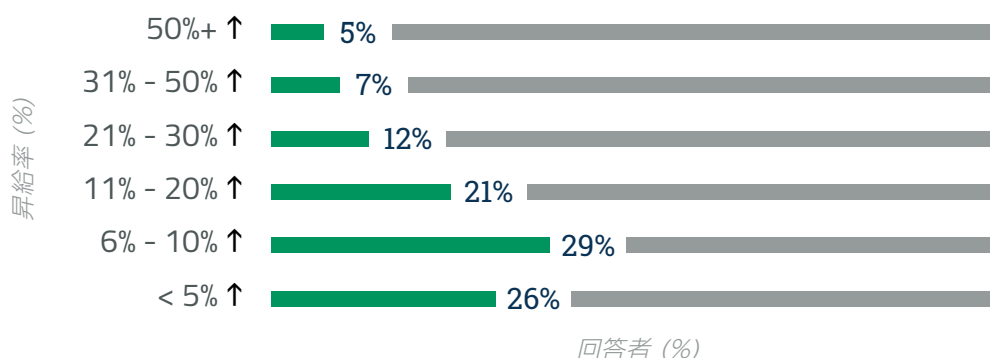
回答者数 = 9,951



65% の回答者が認定取得後 3～4ヶ月以内に
メリットを実感

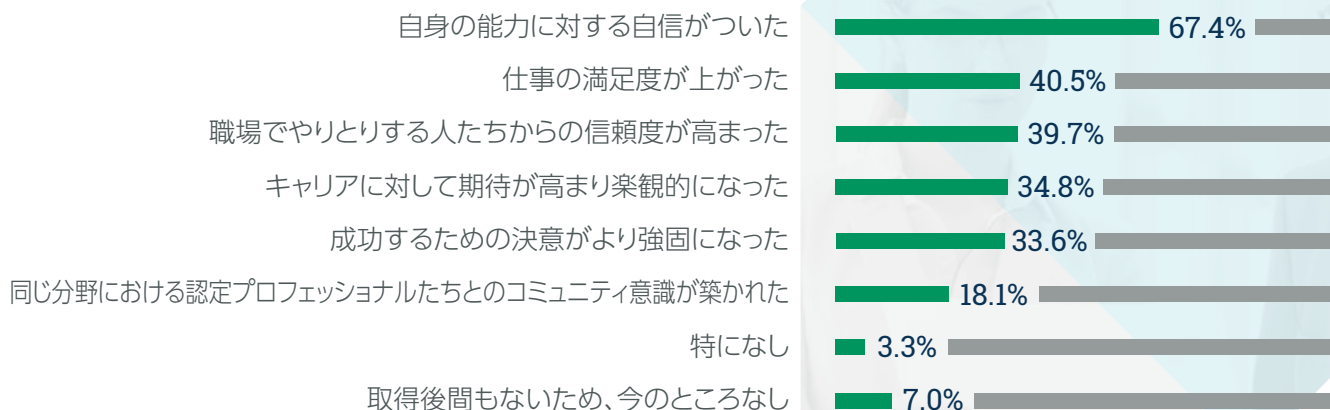
8 調査結果：認定資格取得によるメリット

認定資格取得前と比較した場合の昇給率



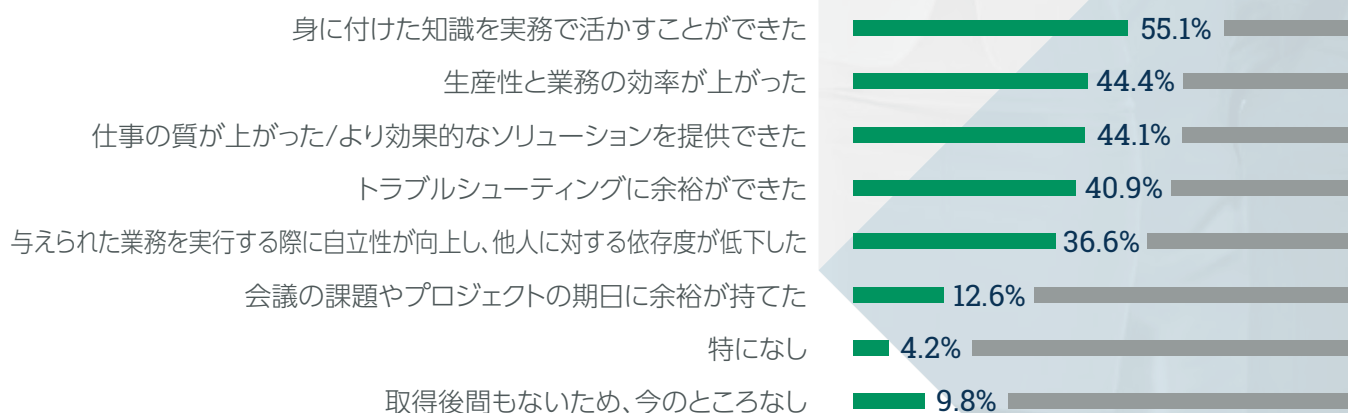
個人的メリット(個人的な価値)

回答者数 = 9,951



実務におけるメリット

回答者数 = 9,951





トレーニングを受講するだけでなく、認定資格取得も目指す方が良いと回答する理由

回答者数 = 10,190

91%

“職場で関わる人たちに、プロフェッショナルとしての信頼感を与えることができる”

90%

“専門分野をより広く、深く学習することになるので、学習におけるギャップを防ぐ/減らすことに効果的”

89%

“自分自身をより価値のあるものにすることができる”

88%

“スキルと知識を最新の状態に保つための大きなモチベーションとなる”

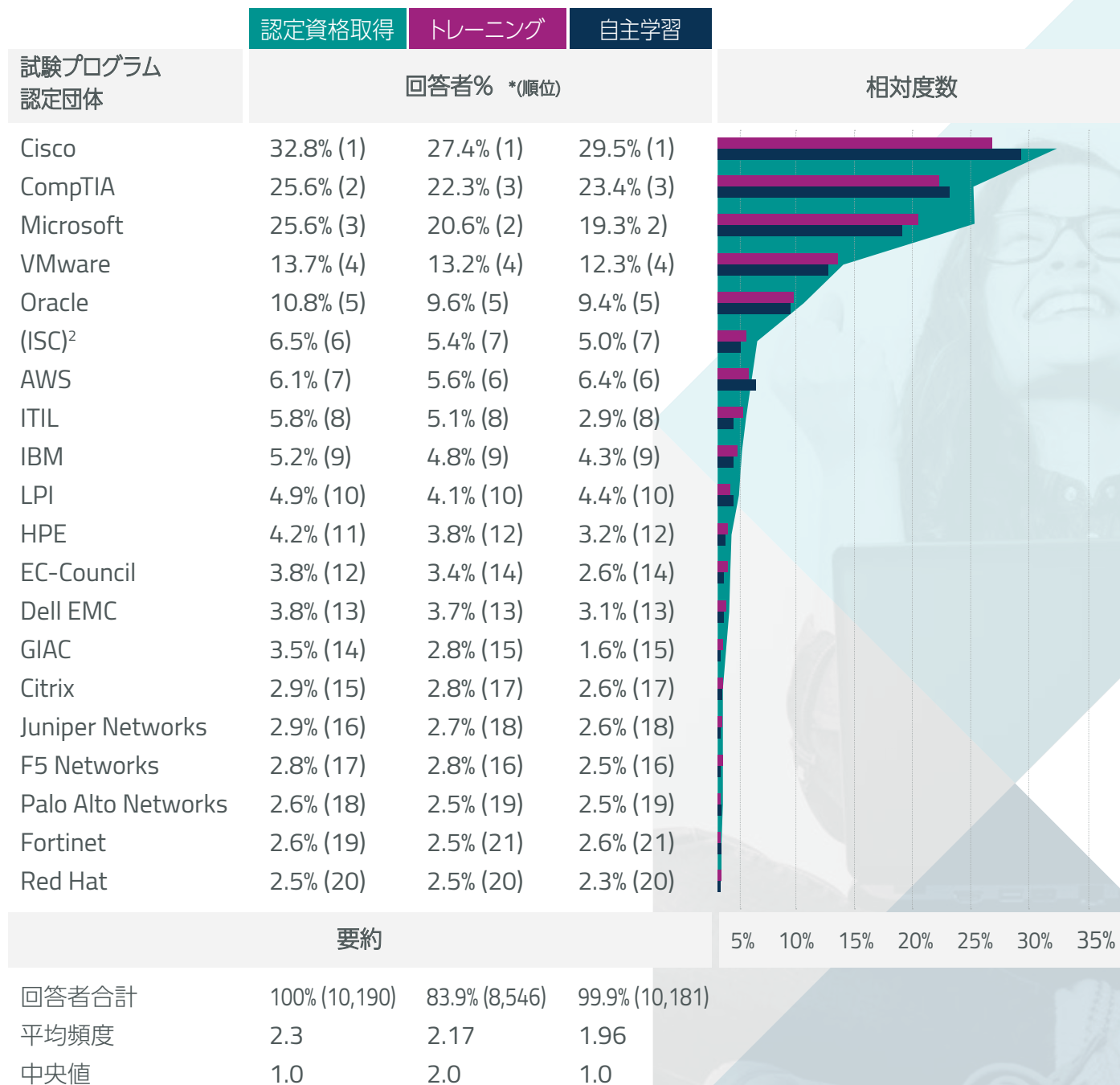
84%

“身につけた知識を長期間にわたり保持するのに役立つ”

84%

“異なるコンセプトをより大きな分野に結びつけるのに役立ち、それらの関連性を見つけることができる”

学習や受験で強化する予定のある試験プログラム TOP20



84% の回答者がインストラクター主導の
トレーニングを受講

調査結果：認定資格の専門分野

最後に受験した認定資格試験の専門分野



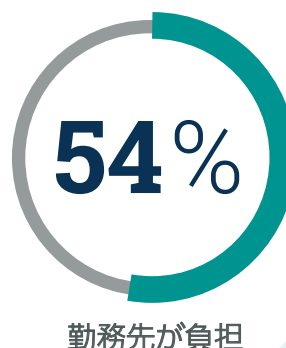
注：調査対象者による最後に受講したインストラクター主導のトレーニングおよび自主学習によってカバーされた専門分野の順位は、基本的にここに示されている順位と同じです (それぞれ $r = .996$ および $.990$)。

調査結果：認定資格試験の購買行動

最後に受験した認定資格試験の受験料は誰が負担しましたか？

回答者数 = 10,190

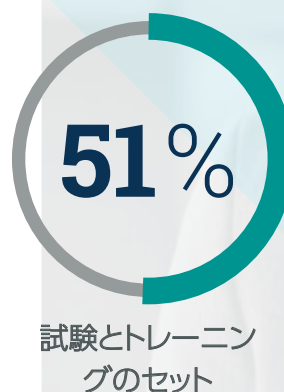
勤務先	53.5%
自分(受験者本人)	31.5%
教育機関(高校/短大/大学等)	5.0%
政府のプログラム	3.7%
試験は無料だった	2.8%
その他	1.8%
回答しない	1.4%
わからない	0.3%



受験した試験は、トレーニングとセットで購入しましたか？

回答者数 = 10,190

試験とトレーニングはセットになっていた	51.3%
試験バウチャーを別途購入した	48.7%



試験料を自身で支払った場合、試験またはバウチャーはどこで購入しましたか？

回答者数 = 3,199

試験予約サイトで直接支払った	28.6%
トレーニング機関	26.6%
mindhub (オンラインストア)	15.1%
その他	11.3%
LPI や CompTIA などのオンラインストア	8.8%
Amazon	4.4%
わからない	2.8%
勤務先	2.2%



インストラクター主導のトレーニング (ILT)

回答者数 = 8,546

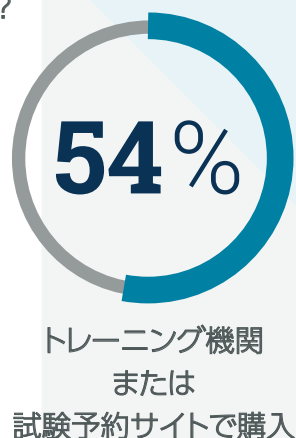
最後に受講したインストラクター主導のトレーニング (ILT) コースの費用は誰が負担しましたか？

勤務先	57.7%
自分(受験者本人)	25.3%
教育機関(高校・短大、大学等)	5.8%
政府のプログラム	4.3%
トレーニングは無料だった	3.6%
ほかの第三者機関 (NPO団体等)	1.5%
回答しない	1.4%
わからない	0.4%



最後に受講したトレーニングコースはどこで購入しましたか？

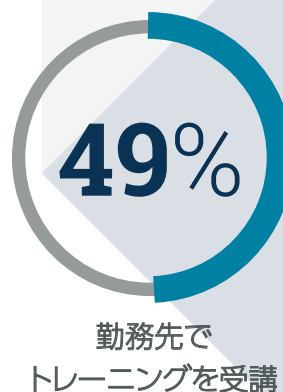
トレーニング機関	40.3%
その他	17.6%
試験を予約したウェブサイト	13.2%
mindhub (オンラインストア)	8.4%
Amazon	6.7%
LPI や CompTIA などのオンラインストア	5.6%
勤務先	4.6%
わからない	3.6%



回答者数 = 2,159

トレーニングコースはどこで受講しましたか？

勤務先	48.5%
民間のトレーニング機関	31.4%
教育機関(高校・短大、大学等)	13.4%
政府機関の施設	5.3%
その他	1.1%



回答者数 = 8,546

過去12ヶ月間に使用した学習教材

回答者数 = 8,546

インストラクター主導のトレーニングで使用した教材



1. 模擬試験	46.6%
2. インストラクターが作成したテキスト	38.8%
3. シミュレーション環境/実技用ラボ	38.5%
4. インタラクティブ・メディア	37.2%
5. ビデオ教材	36.7%
6. 出版されているテキスト (デジタルフォーマット)	34.9%
7. 出版されているテキスト (書籍)	28.2%
8. 実践ベースの教育/共同教育	18.3%
9. その他	1.2%

自主学習で使用した教材

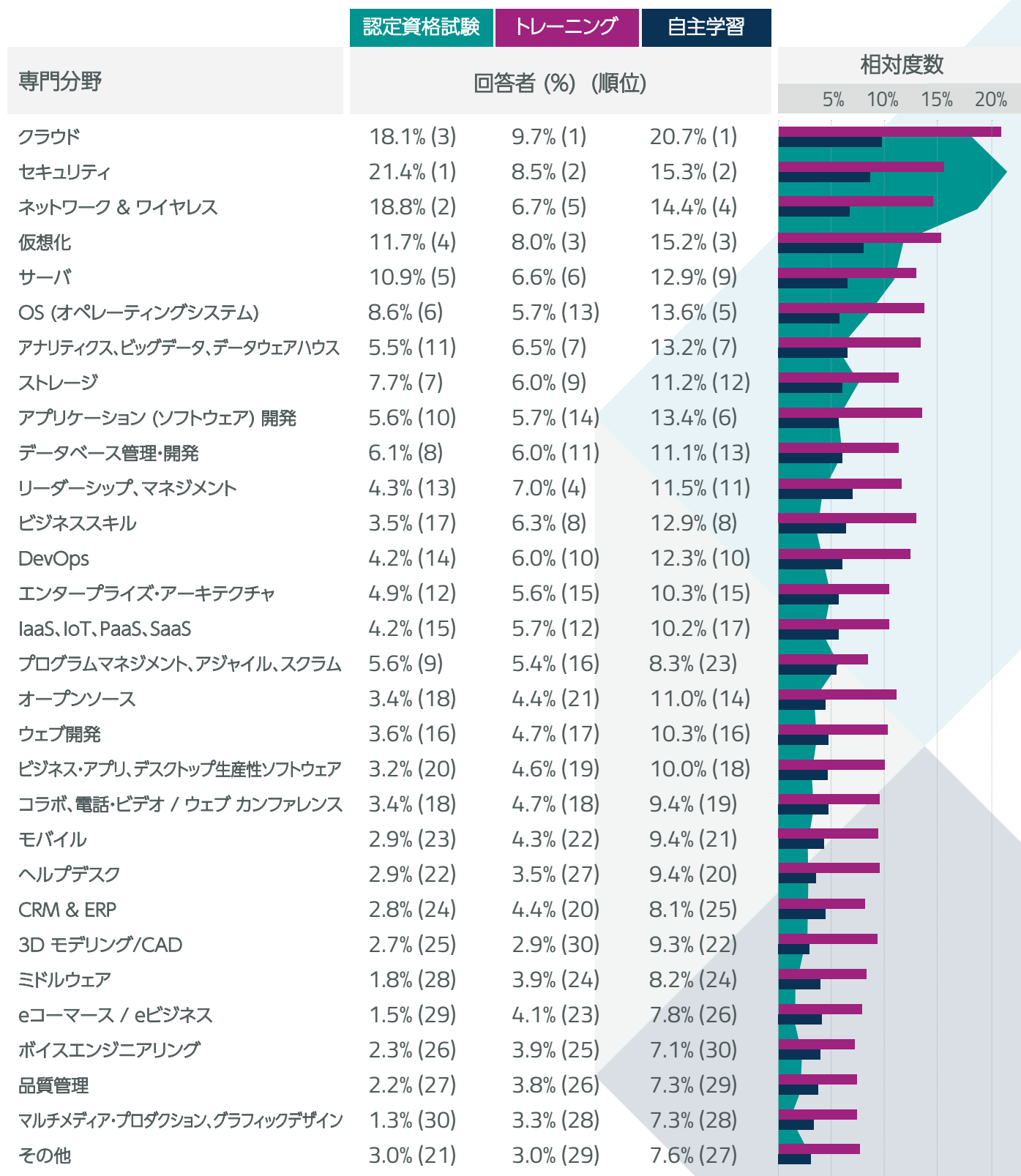
回答者数 = 10,191

1. 模擬試験	43.9%
2. 出版されているテキスト (デジタル)	30.5%
3. シミュレーション環境/実技用ラボ	28.9%
4. 出版されているテキスト (書籍)	27.6%
5. 認定団体が提供するウェブコンテンツ (Microsoft、Cisco、CompTIA等)	27.1%
6. 動画サイト	26.9%
7. 有料のオンライン学習サイト (Lynda、Udemy、Pluralsight など)	26.4%
8. 民間企業が提供するウェブコンテンツ	15.5%
9. 大規模公開オンライン講座、MOOC	8.0%
10. その他	1.5%



調査結果：さらなる認定資格取得の意欲

さらなる発展のために今後12ヶ月間に学習や受験をおこなう予定はありますか？



この調査結果から明らかなことが 1 つあります。それは認定資格保有者は、認定資格取得を達成することにより大きな価値を得ているということです。回答者は、認定資格を取得することで客観的、個人的、そして実用的という、複数の場面においてさまざまなメリットを享受していると答えました。

認定資格取得は、受験者にプロフェッショナルとしてより良い就職機会を与え、さらには彼らに自信を持たせたり、職場での信頼性を高めるなど、さまざまな方法で受験者に良い効果をもたらしています。

また、回答者の大多数は、トレーニングを単独でおこなうよりも、認定資格を取得することは、認定保有者により深い技術的スキルを身に付けさせる、プロフェッショナルな同僚の中でより強い影響力を持たせる、そして継続的な学習やスキル開発においてより強い責任感を持たせる等、いくつかの点で優れていると感じていることもわかりました。

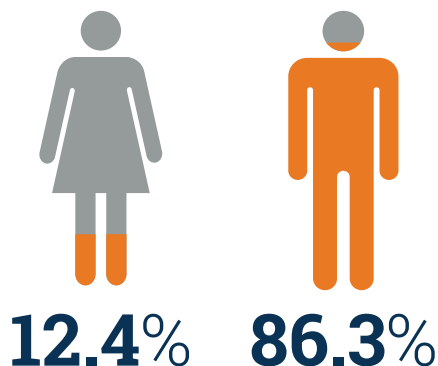
最新の調査で、特に IT 分野で見られるスキル開発を継続的に重視しながら、認定資格の関連性と有効性は今後数年間は高まり続けると予想します。

“認定資格試験に関する調査の結果は、認定資格取得は多大な価値を与え続けていることを示している”



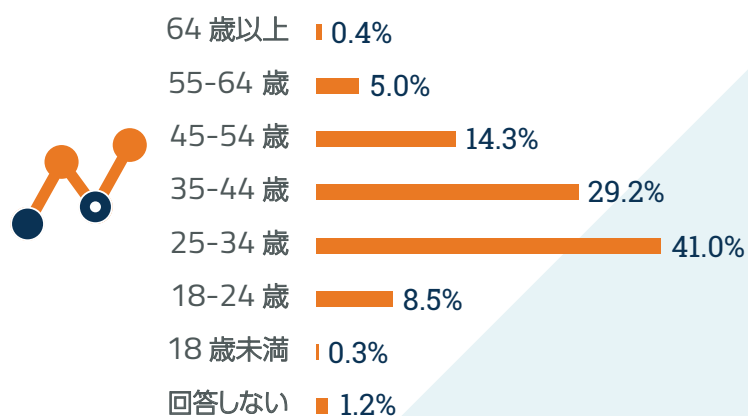
付録：回答者の属性

性別

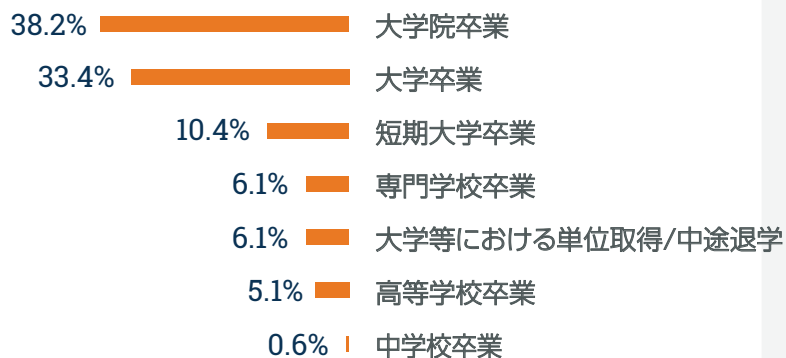


(1.2% 回答しない)

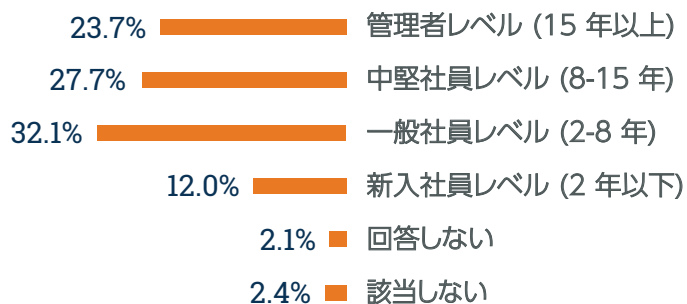
年齢



学歴



キャリアレベル



これまでに取得した認定資格数 (中央値)



4-5

回答者の居住国/地域

回答者数 = 10,190

米国 37.9%

東南アジア 15.5%

日本 12.3%

南米 11.0%

アフリカ (サハラ以南) 7.8%

中東 4.7%

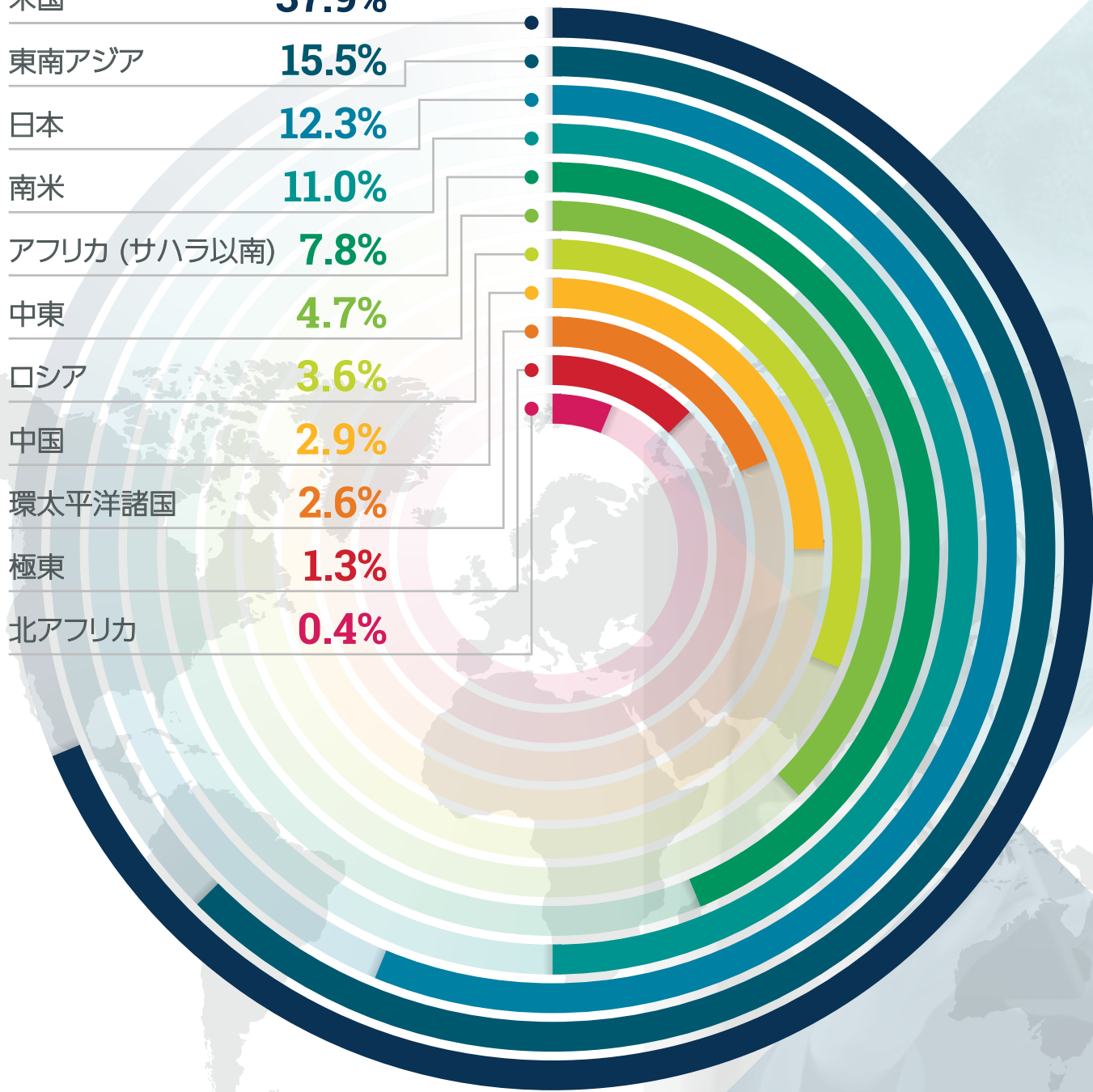
ロシア 3.6%

中国 2.9%

環太平洋諸国 2.6%

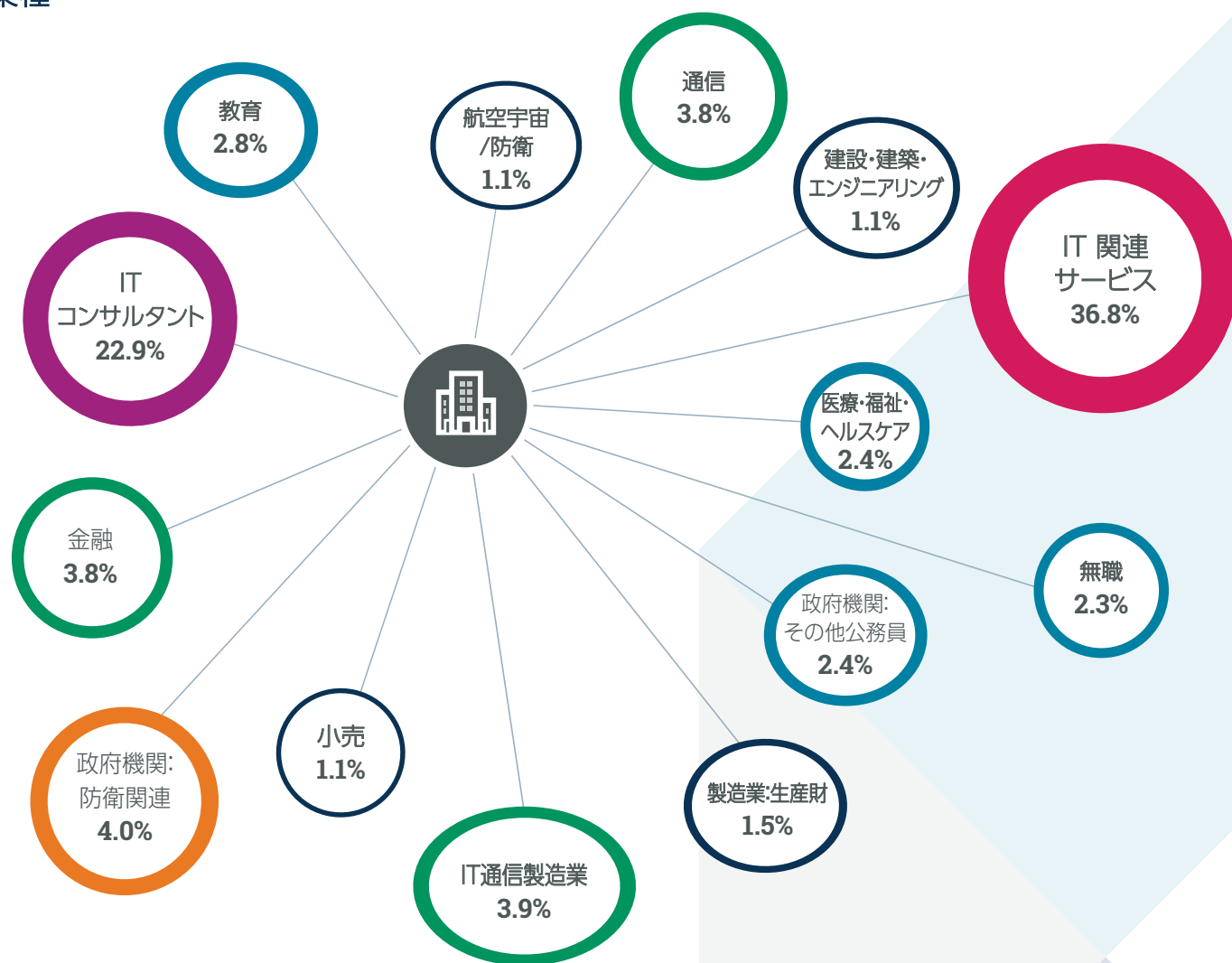
極東 1.3%

北アフリカ 0.4%



業種

回答者数 = 10,190



回答数 1% 未満の業種

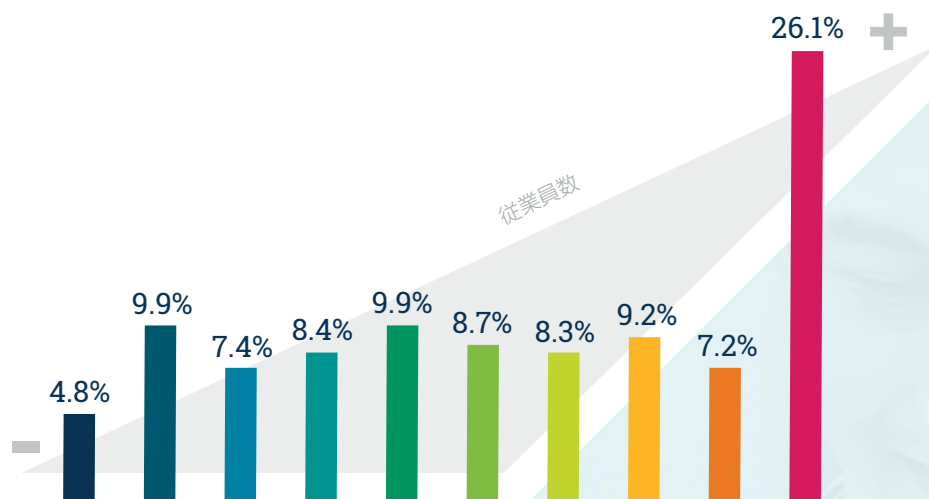
コミュニケーション・広報・広告	0.9%	宿泊・旅行	0.5%
専門ビジネスサービス	0.9%	鉱業・石油・ガス	0.4%
交通・公益事業	0.7%	メディア・映画・音楽	0.4%
ISVおよびVARインテグレーション	0.7%	卸売	0.3%
製造業:消費財	0.5%	製薬・医療・バイオテクノロジー	0.3%
非営利	0.5%	農業・林業・漁業	0.1%
保険・不動産・法律	0.5%	その他	0.3%

付録：所属企業/団体の規模

従業員数

回答者数 = 10,190

- 10 未満
- 10-49
- 50-99
- 100-199
- 200-499
- 500-999
- 1,000-1,999
- 2,000-4,999
- 5,000-9,999
- 10,000 以上



アセスメント業界を牽引

Pearson VUE (ピアソン ビュー) は何十年もの間 CBT (コンピュータベーステスト) 業界のパイオニアであり、教育・入学試験から IT および医療・介護・ヘルスケアまで、あらゆる業界で毎年 1,500 万以上の資格試験および免許試験を配信しています。当社は 世界180 カ国にある約 20,000 の高セキュリティなテストセンターネットワークを介して、ハイステークス試験を開発および配信しています。大手テクノロジー企業から政府機関および規制機関まで、幅広いクライアントとの協力的なパートナーシップでアセスメント業界を牽引しています。

詳細については、PearsonVUE.com または PearsonVUE.co.jp をご覧ください。